

文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム
『ケースとデータに基づく病院経営人材育成』 科目概要

A) 病院経営の意思決定に関する科目群 主担当教員：裴英洙

① 病院経営 I (2 単位)

高齢化社会の進展と医療技術の向上によりヘルスケア領域の拡大が続いています。医療サービスの提供主体である病院や診療所等の経営、または医師等の医療職の行動哲学の理解は、医療機関経営は当然ながらヘルスケアビジネスに関わる者にとっては必須と言えます。その理解には公的保険制度に基づいた戦略設計、医療サービスという財の理解、多職種専門家集団の組織構築等が含まれます。本科目では、医療・介護などの社会保障に関わる制度の現状を踏まえつつ、医療機関経営の問題点と解決法を理解することを目的とします。

② 病院経営 II (2 単位)

病院経営をより深く理解するため、経営実務に近い内容を学び、現状の病院経営における種々の課題打破のための解決策を練ることを目的とします。

B) データに基づく病院経営に関する科目群 主担当教員：吉村公雄

③ データ対話型病院経営論 I (2 単位)

病院経営では質、安全、財務をはじめ様々な観点から課題を発見し、解決方法を立案し、それを実行することが求められる。その際には、どの段階においても、病院に集積され続けている診療データ、経営データ等を対話的に分析することが肝要である。それが、いわば勘と度胸に頼った経営から、主体的で合理的な経営への転換の鍵でもある。そこで、実際の病院事例について、データを用いた意思決定の方法論を習得する。課題を考えながらデータを解析し、解析結果を検証・解釈し、さらにより良い仮説を立ててデータを解析するというプロセスを繰り返すこと。これにより、存在するデータと体験による経験知が融合して、真の状態を明らかにすることができる（“「勘と度胸」の経営から、主体的で合理的な経営へ”）。

④ データ対話型病院経営論 II (2 単位)

同 I の発展的内容を予定。

C) 教育技法に関する科目 主担当教員：竹内伸一

⑤ 病院経営のためのケース教育習得法 (2 単位)

病院経営に関わる者の経営管理能力の向上、ならびに 病院等に勤務する多様な職種のスタッフの問題解決能力の向上やコラボレーションの開発に、ケースメソッドを積極的に役立てていく視座を養うために開講される。授業では、多くの履修者にとってはおそらく不慣れなケースメソッド授業で学ぶ力を身につけ、それと同時並行して、ケースメソッドで教えていく力を展望していく。授業の中心は「ディスカッションリード演習」に置かれ、あわせてケースメソッド教育に関する理論知識や周辺知識を整理する「レクチャー」の時間も設けられる。